

英 語

問1 英語科の目標はどのように改訂されたか。

平成20年1月の中央教育審議会答申では、外国語科の改善の基本方針が示されるとともに、職業以外の専門教育に関する各教科・科目について、改訂の基本的な考え方が「専門教育を主とする学科の特色が一層生かされるよう、また、社会の変化に対応し、生徒一人一人の興味・関心、能力・適性等を一層伸長する観点から、例えば、新たな科目を設けたり、内容を選択して学習したり、重点的に学習したりすることを拡充して、主体的・問題解決的な学習を充実するなどの見直しを行うことが適当である。」と示されている。

この改訂の基本的な考え方や外国語科の改善の基本方針に基づいて、英語科の目標は、「英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。」ことと改訂された。なお、「コミュニケーション能力」は実践性を当然に伴うものであることを踏まえ、現行は「実践的コミュニケーション能力」としているが、単に「コミュニケーション能力」と改訂されている。

この「コミュニケーション能力」を養うには、生徒が実際に情報や考えなどの受け手や送り手となってコミュニケーションを行う活動が必要であり、そのような活動を行う際には、言語の使用場面や働きを適切に組み合わせることにより、活動を効果的なものとするのが重要になる。

問2 「総合英語」と中学校の「英語」との関連はどのようになっているか。

「総合英語」においては、中学校の「英語」におけるコミュニケーション能力の基礎を養うための総合的な指導を踏まえ、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」をそれぞれ別々に扱うのではなく、聞いたことや読んだことを踏まえた上で話したり書いたりするといった4技能を結び付けた言語活動を通してコミュニケーション能力を育成するように工夫する必要がある。

問3 各科目の指導計画の作成に当たって配慮すべき事項は何か。

指導計画の作成に当たっては、次のことに配慮することとする。

- (1) 「総合英語」及び「異文化理解」については、原則として、すべての生徒に履修させること。
- (2) すべての科目において、並行履修させることが可能となったこと。

問4 各科目の内容で改訂された事項及び指導上の留意点はどのようなことか。

| 科目 | 現 行 | 改 訂 | 改訂された事項(一部抜粋)の指導上の留意点等 |
|-------|---|--|---|
| 総合英語 | (1) 発音 (2) 聞き取り (3) 書き取り (4) 対話 (5) スピーチ (6) 読解 (7) 作文 | (1) 発音 <u>(2) 聴解</u> (3) 対話 (4) スピーチ (5) 読解 (6) 作文 <u>(7) 課題研究</u> | (2)「聴解」とは、英語の音声を聞き取り、その内容を理解することを意味している。中学校における学習の基礎の上に、生徒の実態に応じて、適宜題材を選択し、指導することが必要である。 (7)「課題研究」とは、専門学科における英語の学習の集大成として、生徒が自ら課題を設定し、その課題の解決のために情報を収集・分析した上で考察や意見を含む成果物を完成させる学習活動である。生徒が課題を設定するためには、生徒が自らの興味・関心に応じた問題意識を醸成することができるよう、教師が適切な英語の題材を提供することも考えられる。 |
| 英語理解 | (1) 発音 (2) 聞き取り (3) 書き取り (4) 精読 (5) 速読 (6) 多読 (7) 鑑賞 | (1) 発音 <u>(2) 聴解</u> (3) 精読 (4) 速読 (5) 多読 (6) 鑑賞 | (2)「聴解」については、基本的に「総合英語」に準ずる。「英語理解」では、本科目が聞いたり読んだりする活動を中心としていることを踏まえ、場面や目的に応じて、文章の展開やポイントなどに注目して的確に内容を聞き取ったり、単なる事実を述べているのか話し手の意向が含まれているのかなどを判断したりしながら聞くことができるよう指導する必要がある。 |
| 英語表現 | (1) 発音 (2) 対話 (3) レンテーション (4) スピーチ (5) ディベート (6) ディスカッション (7) スキット・劇 (8) 手紙・日記 (9) 作文 | (1) 発音 (2) 対話 (3) スピーチ <u>(4) プレゼンテーション</u> (5) ディベート (6) ディスカッション (7) 手紙・日記 (8) 作文 <u>(9) 小論文</u> | (4)「プレゼンテーション」とは、聴衆に対して情報や提案などを分かりやすく提示して説明する活動である。「英語表現」では、単に情報や提案などを伝えることのみならず、聞き手の注意を引き、理解を深め、発表をより印象深いものにするために、工夫を講じるよう指導することが必要である。 (9)「小論文」とは、「英語表現」における書くことに関する活動の集大成として、一定のテーマについて論理的なまとまった量の文章を書くことを意味する。小論文のテーマについては生徒が自ら課題を設定し、その課題の解決のために情報を収集・分析した上で、考察や意見を含む成果物を完成させる学習活動とすることが望ましい。 |
| 異文化理解 | (1) 日常生活 (2) 社会生活 (3) 風俗習慣 (4) 地理・歴史 (5) 科学 (6) その他異文化理解に関すること | (1) 日常生活 (2) 社会生活 (3) 風俗習慣 (4) 地理・歴史 <u>(5) 伝統文化</u> <u>(6) 科学技術</u> (7) その他異文化理解に関すること | (5)「伝統文化」では、外国の有形・無形の様々な伝統的な行事や文化などに関することを扱う。 (6)「科学技術」では、外国における科学や技術の成果や発展状況などに関することを扱う。 |
| 時事英語 | (1) 新聞や雑誌などの読み取り (2) テレビやラジオなどの放送の聞き取り (3) ビデオや映画などの理解 (4) 情報通信ネットワークを通じた情報の理解 | <u>(1) 新聞や雑誌などの理解</u> <u>(2) テレビ番組や映画などの理解</u> (3) 情報通信ネットワークを通じて得られる情報の理解 <u>(4) 時事的な内容に基づく発表や討論</u> | (4)「時事的な内容に基づく発表や討論」では、本科目の内容の(1)～(3)で示した指導を通して、様々な媒体から得た情報を理解することとなる。この指導内容では、様々な媒体から得た情報をもとにして話したり聞いたりするなど、単なる情報の理解にとどまらず、理解に基づいた情報発信がなされるように指導することをねらいとしている。 |

※下線部は改訂された事項